

## 第71回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会の展望

(資料提供：神奈川県陸上競技協会)

※帰省地参加資格・・・現在の居住地以外の市町村から出場できる制度。 その場合、県内中学校・高等学校卒業時の居住地町村に限る。
---

・昨年70回目を迎えた「かながわ駅伝」では、初めて県下全市町村参加した形で開催され、例年以上の盛り上がった駅伝絵巻がくりひろげられた。今年は従来通りの30チーム参加となった。

・優勝争いは、昨年優勝した横浜市が充実したメンバー編成で他の追従を許さずに2連勝を飾るだろう。加藤智明監督のもと昨年区間賞を獲得した越川（神奈川大）をはじめ、稲毛（國學院大）、我那覇（日清食品グループ）、土屋（東海大）等、本県を代表するランナーで固めている。女子区間の、昨年1秒足りなかったリンズィー（金沢高）、中学生区間の児玉（領家中）と、全く穴が見当たらず、よほどのアクシデントが起こらない限り第1区から先頭に立って逃げ切ってしまう事も考えられる。

・横浜との優勝争いの展開を望むチームを挙げるとすれば、昨年2位の川崎と3位の相模原であろう。昨年の最終区で激しく横浜を追い上げた濱野（専修大）や、箱根でも健闘した鈴木（國學院大）、6区区間賞の橋本（順天堂大）を擁する川崎市だが、中学生区間と女子区間で少し差をつけられるだろう。

・相模原市は日体大のエース小町を軸に、辻田（国士舘大）、加藤（東京農業大）や若く元気な藤沢翔陵高の小町・高橋ら好走が期待できるが、特に女子区間で大きなハンディを負いそうである。

・優勝には届かないかもしれないが、あわよくば上位入賞の可能性があるチームには、藤沢、鎌倉、小田原、茅ヶ崎、平塚市等が入賞を目指して激しい争いを展開しそうである。

・その筆頭に挙げられるのが茅ヶ崎市だろう。石原、川崎の2名の※帰省地参加選手は、昨年同様に堅実に区間上位で襷を継ぐだろう。小室（国士舘大）や鈴木（藤沢翔陵高）も伸び盛りで、中学生区間の力石（松林中）は県下NO.1のランナーであり、区間賞獲得の最有力候補選手である。

・次いで藤沢市はプレス工業所属の2人の出来如何にかかっている。中学生区間もスピードのあるランナーで800、1500mでは県下NO.1のスピードを誇る。

・今年の鎌倉は要注意である。主力の石井（国士舘大）、二井（中央大）、佐藤（神奈川大）の3人を軸に、堅実に入賞をするだろう。

・小田原は、箱根の山登り5区で好走した川口（日本大）が引っ張り、ベテランの樽木、権守（小田原市役所）の2人の区間賞獲得者も好調だ。

・平塚は、ベテラン伊澤（平塚市役所）が健在で、若い岩佐（中央大）、斉藤（秦野高）らのスピードランナーが脇を固める。

・町村の部では、2連勝中の二宮町に、大磯町が挑戦しそうである。

・二宮は、田中（サンベルクス）、原（RUN.3）、小坂（日本大）にスピードのある小早川・小坂の藤沢翔陵高生が継ぐ。3連勝はかなり確率が高いと思われるが、それを脅かすとなれば大川（神奈川大）、松村（仙台育英高）の実力ある選手を擁する大磯町、そして昨年最終区で二宮に逆転された箱根町が絡むだろう。町村の部優勝を目指して5年目、長

年の目標をかかげて強化を計ってきた夢は、大泉（日体大）、岡田（日本大）、越阪部（東海大）の大学生3人の出来如何にかかっている。

・葉山町は、川村（プレス工業）の郷土愛の下、近郷の高校に通う若い高校生が多い若いチームであり、夢を感じる。

・その他、個人的な有力選手として、都道府県対抗女子駅伝で好走した女子区間の佐藤（大和市）、長濱（逗子市）、リンズィー（横浜市）の3人の区間賞争いも注目される。

## 各区間の見どころについて

### 1区 (3.0km)

中学生が担うこの区間は、全国都道府県対抗男子駅伝に出場した、力石（茅ヶ崎）と児玉（横浜）を中心に、スピードに恵まれたクレイ・アーロン（藤沢）らの若々しい躍動感にあふれたトップ争いが見られそうである。コースが新しくなって、しかもコース幅が狭いところもあるため、コースの攻略が勝負のカギとなるだろう。中学生らしい若々しいレースを期待したい。

### 2区 (9.7km)

駅伝の流れを大きく左右する重要区間。前半に約 1.7km の軽い登り坂はあるものの、後半は 2.5km の下り坂を思い切り駆け下る 9.7km は、各チームともエース級を投入して、眼まぐるしい順位変動がみられ、また 10 人を超す豪快なゴボウ抜きが見られる区間である。横浜は越川か、川崎は濱野辺りを投入して離されないレース展開が予想される。

### 3区 (8.2km)

ほぼ平坦なこの区間は、スピードに恵まれた選手や、走りやすいコースであることや直線が長く前が見えることから、少し気の強い競り合いに強い選手の起用が多い。4 km を過ぎる愛甲石田前の上り坂から 6.5km からの平坦地は、強い向かい風が吹くことも多く、ラストの粘りが必要である。

### 4区 (2.7km)

女子が担当する区間で、距離は 2.7km と短いですが、時間では 3 分近い差が出ることもある。この区間では、昨年区間賞の佐藤（大和）に都道府県対抗女子駅伝に本県代表として好走したリンズィー（横浜）と長濱（逗子）の区間賞争いは 1～2 秒差であろうし、長年破られなかった区間新記録の更新も期待される。

### 5区 (7.2km)

男子が担う最短区間であるが、全体としてゆるやかな上り勾配が続く区間である。中でも、6 km から続く 800m の登り坂は、若い高校生には気の抜けないところである。昨年は越川（横浜）、一昨年は橋本（川崎）と 2 年続けて高校生が区間賞を獲得しており、キック力の強い高校生がベテラン選手に果敢に挑戦して欲しいものである。

### 6区 (10.7km)

この駅伝の最長区間であり、また大きなアップダウンがあり、ラスト 1.5km もダラダラ上りのこの区間の成否がこれまでも優勝の行方を大きく左右してきた。各チームともエースを投入してくる。中でも 2 つ目の真名倉坂の急坂は、誰もが苦しんで越えなければならず、ここの走り如何で大きな差が出てくる。昨年は大会史上初の高校生が区間賞獲得をした橋本（川崎）は本年もここを担当するだろう。相模原は、小町が投入できるようならば大逆転も可能である。逃げる横浜は、前年安全に走り切った我那覇辺りの 3 人で熾烈な区間賞

争いも見物である。とにかく、本県各市町のエース選手の鏝迫り合いには見応えがあるだろう。

### 7区 (10.0km)

2番目に長い 10.0km のこの区間は、全体として相模湖のゴール地点に向かって下り勾配の多い区間である。スタート直後の 1km は上り坂であるが、そこから約 3km で 100m 下る坂で、また 7.5km までは小さなアップダウンを経てゴールに向かう走り易いコースとも言える。相模湖が眼に入ってから平坦 2km の踏ん張りでタイムが大きく違い、走り易いとはいえ、アップダウンの走り方の上手・下手が、ここで逆転を生むことになる。気温も高くなってくるので、気温との勝負も大切になってくる。6区までの順位を死守せんがため、各チームとも鎬を削る踏ん張りを期待したい。